

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500010
法人名	医療法人 大進会
事業所名	グループホーム 重富の里
所在地	鹿児島県始良市平松5320番地 (電話) 0995-66-5477
自己評価作成日	平成28年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

始良市郊外の武家屋敷跡の風情が残る閑静な住宅街にあり、ホームのたたずまいも武家屋敷通りの名残りが感じられる門構えとなっている。敷地内に小規模多機能ホームが併設しており、年間行事や避難訓練など合同開催の機会も多く、職員間の連携や協力体制を整えている。法人は他にも医療機関や老人保健施設、認知症専門デイサービスを運営しており、ご利用者の状態によって医療と福祉が連携しながら利用者・家族の安心につなげている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は小規模多機能ホームと併設され廊下で繋がっており、職員間の連携や災害時の協力関係が構築されている。
- ・自治会に加入し当事業所が月2回開催する重富民族資料館での「歌声喫茶」に、利用者と地域の人々の参加がある。認知症の相談なども受け、認知症対策や情報発信の場となっている。小学校の運動会に出かけたり、小学生がホームに来所し、子供たちとの交流を深めている。
- ・母体医療機関や老人保健施設・認知症対応型デイサービスがあり、連携しながら、利用者が安心して過ごせるようにしている。
- ・管理者や職員は、利用者個々人の生活歴や思いを把握して、外食や図書館に出かけるなど、無理強いせずにその人らしい生活ができるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「愛・夢・学」の理念を念頭に、利用者本位の生活が過ごせるように、職員が共有して実践に努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念を事業所内のリビングや事務所に掲げ、職員会議やミーティング等で、振り返り、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事への参加や近所の小学校の行事に参加、交流をしている。	自治会に加入し総会などにも出席している。回覧板や「重富の里」通信などで情報のやり取りがある。いきいきサロンに参加して認知症の相談を受けたり、小学校との交流・実践者研修・支援学校の実習・ボランティアの受け入れなども行い、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	近所の小学校にて、毎年認知症の方への声掛け模擬体験を開催したり、地域のサロン等で認知症についての話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて、状況報告、意見交換、情報交換を行い、施設内の行事や防災訓練等のアドバイスを頂き、実践に活かすように努めている。</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催し、事業所の活動・グループホーム協議会・認知症セミナー・外部評価などの報告を行い、参加者からも多くの助言や提案がある。町内会長や消防分団への「緊急連絡網」を整備し、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議等で市の福祉課や地域包括支援センター担当者から情報や助言を頂き、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市担当者には、窓口に出向いたり電話で事業所の実情や取り組みを伝え、助言を得ている。市と一緒に徘徊模擬訓練を行っている。運営推進会議にも毎回、市担当者が出席して貰っている。地域ネットワーク会議で意見交換を行う等、連携を深めている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、原則、行っていない。 職員は、認知症の研修会や職場のミーティングを通じて、身体拘束の弊害を十分理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルに基づいて法人で研修があり受講している。職員会議で事例や課題について勉強会を実施し、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら、見守りや同行など職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について職員も理解している。ミーティング等でも話し合いを行っている。利用者への言葉使いや対応にも注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内の権利擁護に関する勉強会を行っている。また最近、後見人制度を活用されている方が1名入居され実際に関わりがあることで学ぶ機会も出てきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項に沿って説明し家族の理解、納得の上、同意を得て契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段から、家族等から意見や要望について出して頂けるように、常日頃から声かけに努めている。また、バーベキュー大会等の家族交流会時に、要望等をきく機会を作っている。	利用者との関わりの中で意見や要望を汲み取っている。家族からは、何でも言える関係作りに努め、面会時や電話・家族交流会のバーベキュー大会等で、利用者の良い面を伝え意見を聞いて運営に反映している。図書館へ行きたいとか犬とのふれあい・クレープを食べたいとの情報を職員で話し合い反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々のミーティングや月1回の職員会議、また個別的な面談などで意見を聞き、検討している。</p>	<p>管理者はミーティングや職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。意見が言いやすい環境作りに努め、活発な意見や提案が出ている。提案により、食材購入の効率化を図るなど運営に反映させた。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の人事評価を実施。他に、必要に応じて対応を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内や法人内で勉強会や質の向上委員会、外部研修に参加して個々の能力を高めている。また人事考課にて研修や職員面談を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同市内の地域密着型サービス事業所と一緒に勉強会や実践報告会を行いながら交流会、研修などを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時から本人、家族より意見、要望を聞き、本人の声に耳を傾けながら、本人の不安を取り除き安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、当施設を見学して頂き、家族の方の要望や困っている事について、話し合いを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時から家族の困っていることや要望を聴き家族と問題を共有し安心してもらうような関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見つけ、それぞれの役割りや出来る事の喜びを味わえるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の際は、本人と家族がゆっくりと過ごせるように配慮を行っている。職員は、生活の様子を報告したり、要望などを聞く等、良い関係を築けるよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族の面会が多く、一緒に外出されたり、食事を食べに行かれたりしているが、家族以外の近隣の方や知人の方、馴染みの人の面会は少ない。</p>	<p>住み慣れ親しんだ地域での関係性や継続性を大切にしている。家族や友人の面会も多く、一緒にお茶を飲むなどして継続的關係が途切れないよう働きかけている。手紙や電話の取次ぎなども行っている。家族と馴染みの美容室や食事に出かけたり、図書館や法事など、家族の協力を得て支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>全ての生活の場面で配慮を行い、それぞれの利用者らしく関わりあえるよう支援を行っている。トラブルについてもお互いの人格を傷つけないよう介入し、よりよい関係作りに努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了となっても、また必要となった時には、また相談に応じたり、利用を始める事ができる事を伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常日頃から一人ひとりとコミュニケーションをとり思いや希望を引き出すよう取り組み、自己決定できるように対応している。	日常の利用者との関わりや生活歴・家族からの情報収集に努め、思いや意向の把握に取り組んでいる。入浴時など個々人とのコミュニケーションを図り、言葉や表情などからも把握している。困難な場合は家族や関係者と話し合い、仕草などからも把握して、利用者の視点に立って、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の中の私の暮らし方シートを用いて、これまでの暮らし方等の情報を収集にケアの手がかりにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで一人ひとりの1日の過ごし方の把握を行い、心身の状態を見ながら出来ること、出来ないことの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて課題やケアのあり方、家族からの意見や各担当からのモニタリングなどから話し合いを行い、ケアプランを作成している。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も取り入れ担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。ホームでのより良い暮らしができるように、毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や業務日誌、申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し、日々のケアに反映、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携を図り、個別のリハビリ等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会、地域の小学校との関わりがあり、地域の行事などに楽しく参加をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族希望のかかりつけ医にて定期受診、急変時に適切に受診を受けられるように支援している。	かかりつけ医は本人や家族の希望を大切にしている。協力医療機関からの月2回の往診や週2回看護師の訪問で健康管理を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日のバイタルチェックや一人ひとりの状態の把握を行い、同法人の病院から看護師が訪問に来られるので、状態の変化などの報告、相談を行いながら適切な受診が受けられるように支援してる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際や入院中は主にソーシャルワーカーと連携を図りながら、今後の方向性など情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した際にその都度、確認、家族や医療機関と連携を図っている。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。状況変化に伴い随時話し合い、家族の希望に沿って主治医や訪問看護師と協力しながら事業所としてできる範囲の支援に取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対応マニュアルを作成しており、急変時の対応に備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を実施、全職員で災害時の対応ができるように努めている。運営推進会議にて災害時の協力もお願いし協力体制をとっている。</p>	<p>年2回消防署の指導のもと、昼夜想定避難訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議の参加者や地域住民の参加もある。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、地域住民や消防団員が登録されるなど協力体制が整っている。災害時の水や米・缶詰・インスタント食品やガスコンロ・ボンベなどを備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するように個々に応じた言葉かけを行っている。居室やトイレ、入浴時でもプライバシーの確保に心がけている。	個別の人格やプライバシーが確保できるように、マニュアルに沿って勉強会を行い、ケアに取り組んでいる。ミーティングや申し送り時を通じて何回も繰り返し注意し合っている。呼び名はさん付けである。入室時は必ずノックをし、入浴やトイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から一人ひとりとコミュニケーションをとり思いや希望を引き出すように取り組み、自己決定できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、それぞれの生活リズムに合わせ、起床や就寝も一人ひとりの状態に合わせて対応し日中の過ごし方も希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望や好みを尊重し、その日の天候や気温にあわせた服装を選んでもらい、季節感や清潔保持ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>できる方には声をかけ、職員と一緒に、料理の下ごしらえをしたりしている。梅干し作りや干し柿、ちまき作りなどは入居者に作り方を聞きながら行っている。</p>	<p>旬の食材を使用し嗜好に配慮した献立を栄養士が作り、個々に応じた食事形態を工夫している。誕生食は希望を取り入れたり、季節の行事食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。利用者のできる機能を活かし食材の皮むきや食事準備・片付け等を行っている。梅干し・ちまき作り等も職員と楽しく作っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食事、食事量の確認を行い状態に合わせ、食事を刻んだり、ミキサー食やトロミをつけた食事形態を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後は個々に応じ口腔ケアを行い、口腔内清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>職員がこまめに声かけ誘導でトイレでの排泄を支援している。</p>	<p>排泄チェック表から排泄パターンを把握し適切なトイレ支援を行なっている。必要に応じて声かけをし、日中はトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間はポータブルトイレやオムツ利用者もいる。オムツから改善した事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳やヨーグルト、食材の工夫、水分摂取にて便秘予防に努めている。排泄チェックを行い、必要な方には下剤を使用し排便のコントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の状態に合わせて、時間帯や曜日を決定しているが希望があれば入浴が出来るようにしている。	入浴は基本的に週3回であるが、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。機械浴も設置している。菖蒲湯やゆず湯などで入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒む利用者には、職員や時間を変えて工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムやその日の状況を確認しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々のケア記録にとじ、全職員で共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの力を活かすように洗濯物たたみや食材の下準備を手伝ってもらったり、職員やボランティアグループによる歌や踊りなど行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>頻回な外出は出来てはないが、家族との外出や外食、近隣での行事の参加や季節の花見やドライブで外出の支援は行っている。本が好きな方はスタッフ、家族と一緒に図書館に行ったりしている。</p>	<p>日常的には周辺の散歩をしたり、併設する小規模多機能ホーム利用者とお茶飲みを楽しんでいる。本の好きな利用者は図書館に行ったりしている。年間計画を立て、初詣や花見・かかし祭り・小学校のバザー・マラソン大会の応援等に出かけている。家族の協力で外泊や外出・外食・墓参などに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族に了解を得て、個々に預かり金を管理している。欲しい物や必要な物は職員が買ってきたり、家族が本人と一緒に買い物に行ったりする事もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族了解のもと電話をしたり、年賀状なども書けない方へは職員と一緒に付き添い代筆したりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節に合わせた飾りつけをしている。居室も個々に合わせた部屋づくりを行っている。また夏場、トイレ内が暑いとの意見もあり、扇風機を設置したり居心地のよい空間作りに努めている。	共用空間は天窓や大きな窓があり明るい。換気や温度・湿度が調整され快適で過ごしやすい。壁には多くの絵画や季節の飾りつけがなされている。台所はオール電化で利用者との会話もしやすい作りである。畳やソファが置かれ、好きな場所で居心地よく過ごせるような工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のテーブル席は利用者間のトラブルがないように席の位置を配慮している。また、廊下にソファを設置、気軽に談笑したり、独りになりたいとき等自由に過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に在宅生活時の馴染みの物や使い慣れた物を持ってきてもらったり、家族と一緒に部屋の飾り付け等行い居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は電動ベッドやエアコン・タンス・鏡が備え付けである。寝具はリースである。ベッドやタンス・冷蔵庫・毛布・机・椅子・家具・テレビ・カセット・位牌・遺影・本・写真など、居心地良く暮らせるように利用者、家族の要望を取り入れて配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は廊下やトイレには手すりが設置している。また本人の状態に応じ、居室選び、ベッドや家具の位置などの検討を行い、安全、安心で自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない